

第88回日本皮膚科学会 東部支部学術大会を終えて

(2024年9月14・15日)

仙台国際センター

川上 民裕

前東北医科薬科大学皮膚科主任教授，川上皮膚科クリニック院長

開催準備は2年前から

第88回日本皮膚科学会東部支部学術大会を主催するにあたって，もっとも意識した点は集客です。2年前から共通の知人の方を介して，タレントの狩野英孝氏やプロ野球選手の齋藤隆氏(横浜DeNAベイスターズ)を招聘するプランを練りました。狩野英孝氏，齋藤隆氏とも宮城県出身です。余興とのバランスを考えて学術は，私の専門である白斑と血管炎に造詣の深い海外ゲスト5名を招聘しました。白斑はChung-Hsing Chang先生(Tzu Chi University／台湾)，Boon-Kee Goh先生(Mount Elizabeth Medical Centre／シンガポール)，Cheng-Che E. Lan先生(Kaohsiung Medical University／台湾)，血管炎は

David A. Wetter先生(Mayo Clinic／アメリカ)，Cord Sunderkötter先生(University Hospital Halle/Martin-Luther-University／ドイツ)です。こちらは，1年前に内諾を得ました。開成中学・高校の同級生である古川俊治先生(参議院議員／慶應義塾大学外科教授／弁護士)は，医学開成会で会ったおり快諾を得ました。

プログラム発行時(学会開催3カ月前)

狩野英孝氏と齋藤隆氏の所属事務所からは，開催3カ月前で初めて契約可能といわれていましたが，幸いなことに両事務所から承諾をいただきました。日本皮膚科学会事務局の山田紀子氏の提案で，狩野英孝氏をプログラム表紙に採用しました。大会前日の会長招宴会には，宮城県気仙沼市出身のマギー審司氏の出演も決定しました。

会長招宴会

挨拶は，招待した海外ゲスト5人に登壇いただき，私が英語で紹介する形式で行いました。Chung-Hsing Chang先生はご主人のRong-Kung Tsai先生(眼科医)を同伴されていましたが，次いで，古川俊治先生の挨拶，日本皮膚科学会理事長である藤本 学先生(大阪大学)に乾杯発声をお願いしました。宴もたけなわでマギー審司氏の余興となりました(図1)。最後は川村龍吉先生(山梨大学)に締めていただきました。David A. Wetter先生，Boon-Kee Goh先生はカラオケが大好きとのことで，招宴会後は海外ゲスト全員を繁華街の国分町へご案内しました。



図1 マギー審司氏の十八番ポーズ



図2 全体記念撮影



図3 狩野英孝氏の余興
a:トークショー b:十八番の「大きなのっぽの古時計」と「翼をください」を熱唱 c:若手の女性医師に大人気

大会初日

午前中は海外ゲスト枠で、白斑(Chung-Hsing Chang先生, Boon-Kee Goh先生, Cheng-Che E. Lan先生)と血管炎(David A. Wetter先生, Cord Sunderkötter先生)をテーマにした招待講演としました。英語講演の不人気を鑑み、臨床中心の内容かつ初日午前に組み込みました。その後、記念撮影です(図2)。ランチョンの牛タン弁当が参加された先生方に好評で、さらに海外ゲストの先生方も喜んでくださったのは意外でした。スイーツは地元で人気かつ入手困難なシーラカンスモナカ、そしてシーラカンスタマゴを提供しました。かの羽生結弦選手(仙台市出身)が最良にしている商品です。

全体懇親会には狩野英孝氏に出演いただきました。東北医科薬科大学皮膚科の医局員4人とのトークショーのあと、十八番の「大きなのっぽの古時計」

と「翼をください」を熱唱されました(図3)。選曲などは狩野英孝氏のプロデュースです。若手の、とくに女性医師が大挙して取り巻き、写真を撮りまくっている様子は圧巻でした。



図4 古川俊治先生と



図5 齋藤隆氏と

大会 2 日目

スポンサードシンポジウムやセミナーは、パラダイムシフトがおこっているアトピー性皮膚炎と乾癬などを中心に企画しました。午後の教育講演1では、古川俊治先生に医療政治の話題を盛り込みお話しいただきました。医師免許取得から直接美容業界へ進む^{ちよくび}“直美”が、厚生労働省の「美容医療の適切な実施に関する検討会」でも問題となっていて対策されるそうです(図4)。次いで教育講演2では、齋藤隆氏に登壇いただきました(図5)。日本での栄光を捨ててアメリカ本場のメジャーリーグへ挑戦し、成功を収めた話に感動しました。

大会を終えて

学会後、齋藤隆氏を交えて仙台牛のステーキ店で打ち上げをしました。ゲスト出演者を紹介いただいた共通の知人の方にも功労者として参加いただきました。一方、海外ゲスト部隊にはエクスカーショで青葉城、松島遊覧、中尊寺金色堂巡りをお楽しみいただきました(図6)。

私はホストであり主役ではないと考え、すなわち黒子に徹しておもてなしの精神を肝に銘じ、準備などを進めてまいりました。当日まで手厚くサポートしてくれた教室員や学会事務局の皆様、また参加された先生方に厚く御礼申し上げます。



図6 海外ゲスト部隊エクスカーショ 青葉城にて